

# 熊本城復旧基本方針

平成28年12月

熊本市



# I はじめに

## 1 被害の状況等

平成 28 年 4 月 14 日に発災した平成 28 年熊本地震（以下「熊本地震」という。）により、熊本城は過去に類を見ない甚大な被害を受けました。

その被害は、倒壊・崩落・一部損壊等を含め重要文化財建造物 13 棟及び再建・復元建造物 20 棟（以下「建造物等」という。）の全てが被災し、石垣は全体の約 3 割に当たる約 23,600 m<sup>2</sup>に崩落や膨らみ・緩みなど修復を要する箇所が見受けられるほか、便益施設等 26 棟も屋根や壁が破損し、地盤についても約 12,345 m<sup>2</sup>に陥没や地割れが発生するなど熊本城全域に及びます。

この甚大な被害を受けた熊本城の復旧には長い歳月と多大な経費を要することが見込まれ、現在把握している被害だけでも、その被害額は概算で約 634 億円に上ります。

### <熊本城の被害状況>

※熊本城全体の石垣：973 面 約 79,000 m<sup>2</sup>

区分	被害内容等
石垣	膨らみ・緩み 517 面 約 23,600 m <sup>2</sup> (全体の 29.9%) うち崩落 229 面 約 8,200 m <sup>2</sup> (全体の 10.3%)
地盤	陥没・地割れ 70 箇所 約 12,345 m <sup>2</sup>
重要文化財建造物	13 棟(倒壊 2 棟、一部倒壊 3 棟、他屋根・壁破損等 8 棟)
再建・復元建造物	20 棟(倒壊 5 棟、他下部石垣崩壊・屋根・壁破損等 15 棟)
便益施設等	26 棟(屋根・壁破損等)

### <熊本城の被害額> (平成 28 年 9 月 14 日公表)

区分	被害額
石垣	約 425 億円
重要文化財建造物	約 72 億円
再建・復元建造物+その他公園施設	約 137 億円
総額	約 634 億円

(注 1) その他関連施設として旧細川刑部邸(約 5 億円)

(注 2) 現時点での概算値、今後、調査・設計・復旧等の進捗に伴い、変更がある。



(大小天守)



(北十八間櫓・東十八間櫓)

## 2 基本方針及び基本計画の策定

### (1) 基本方針の策定

熊本地震により全域的に文化財及び都市公園の両面から甚大な被害を受けた熊本城の復旧には、長い歳月と多大な費用を要するほか、高い専門知識・技術・マンパワーを要することから、国県等の関係機関との連携はもとより、市民・県民をはじめ多くの皆様の力を結集して取り組んでいく必要があります。

また、その復旧にあたっては、文化財的価値の保全を基本としつつ、市民の憩いの場としての都市公園の早期復旧の観点から、或いは文化財・都市公園が調和した重要な本市の観光資源としての早期再生を図る観点から、効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を進めていくことが重要です。

この「熊本城復旧基本方針」（以下「基本方針」という。）は、復旧に向けた基本的な考え方や具体的に取り組むべき施策の方向性を定め、市民・県民・行政・関係機関等の共有のもと、将来の礎づくりとしての熊本城復旧に一体的に継続して取り組んでいくために策定するものです。

### (2) 基本計画の策定

基本方針に定める基本的な考え方や取り組むべき施策の方向性に基づき、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくため、石垣・建造物等をはじめ、便益施設・管理施設等を含む熊本城全体の復旧の手順や工法及び復旧過程の公開など具体的に取り組む施策を体系的に定めた「熊本城復旧基本計画」（以下「基本計画」という。）の策定に取り組みます。

また、基本計画の期間・区域・位置付けについては、以下のとおり設定します。

#### ① 計画期間

基本計画の計画期間は概ね20年とします。

なお、基本計画の主要施策について、短期施策・中期施策として整理・区分し、短期施策の終期を概ね5年、中期施策の終期を概ね20年までに設定します。

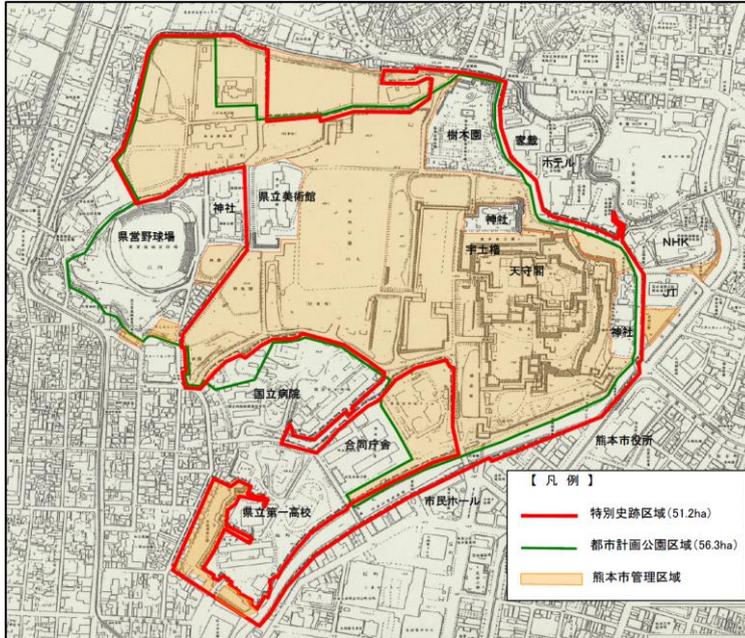
#### <計画期間と短期・中期設定イメージ>

区分/年次	H28	H29	H30～H34	H35～H49
計画期間全体	☆基本計画策定		基本計画に基づく復旧（概ね20年）	
短期施策 （概ね5年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急対策</li> <li>・重文保全等</li> </ul>		短期施策の展開	
中期施策 （概ね20年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天守閣復旧等</li> </ul>		中期施策の準備・展開	

## ② 計画の区域

基本計画の対象となる区域は、特別史跡区域（51.2ha）及び都市計画公園区域（56.3ha）とします。

### <計画区域>

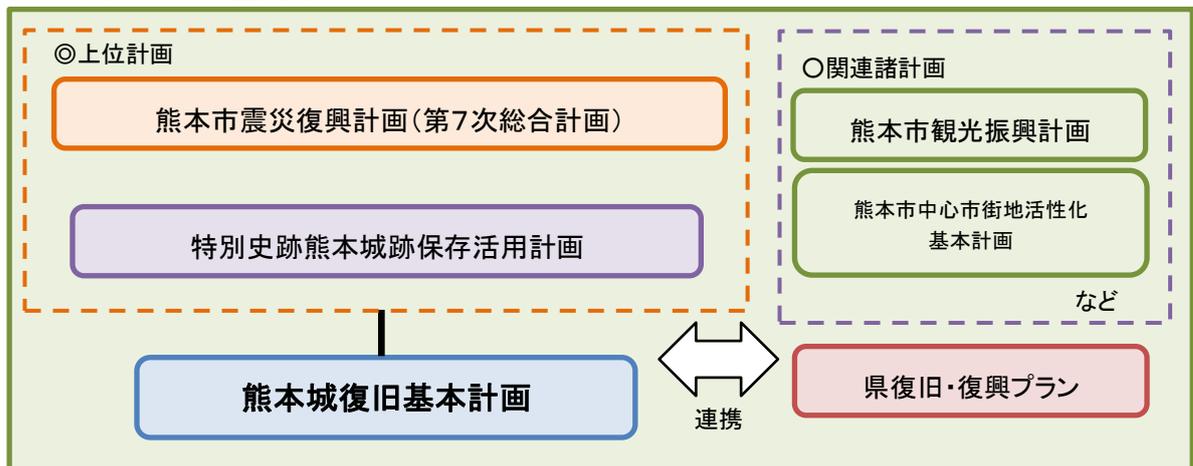


## ③ 計画の位置付け

基本計画は、熊本地震からの復興に向けて熊本市第7次総合計画の前期基本計画の一部として策定した「熊本市震災復興計画」、熊本城の保存管理・防災・活用等の基本方針等を定めた「特別史跡熊本城跡保存活用計画」を上位計画とし、熊本城復旧のマスタープランとなるものです。

また、基本計画は「熊本市観光振興計画」や「熊本市中心市街地活性化基本計画」など本市の関連諸計画をはじめ、熊本県策定の「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」など県全体の復興計画とも連携を図っていきます。

### <本計画の位置付け>



## Ⅱ 基本的な考え方

熊本城は、国の特別史跡に指定されている我が国有数の重要な文化財であるとともに、国内外から年間 170 万人を超える多くの市民・県民・観光客が訪れる熊本のシンボルであり、熊本城の城下町として発展してきた本市にとって、文化振興や観光振興、都市ブランド戦略、MICE 施設と連動した中心市街地の活性化など、本市のまちづくりに係る主要施策を展開していくうえで、また、今後の震災からの復興を遂げていくうえで欠かすことのできない中核を成すものです。

この熊本城の復旧に向けては、文化財的価値の保全や都市公園と調和した重要な観光資源としての早期再生、将来の災害に備える安全対策等に加え、震災の記憶を次世代に繋いでいく長期的な視点を持つことが重要であり、以下の 5 つの基本的な考え方に基づき、国県等の関係機関との連携のもと、市民・県民をはじめ多くの皆様の力を結集し、100 年先を見据えた復元整備への礎づくりとしての熊本城復旧に取り組んでいきます。

### 1 復興のシンボルである天守閣の早期復旧を目指す

天守閣は熊本城のシンボルであり、市民・県民をはじめ熊本城を愛する国内外の多くの方々が早期復旧を望んでいます。これは、熊本地震で被災した多くの市民・県民にとって、天守閣の早期復旧が震災からの復興のシンボルとして捉えられていることに他なりません。

加えて、本市では 2019 年に国際スポーツイベントを控えており、国内外から多くのお客様をお迎えすることからも、熊本城のシンボル、震災復興のシンボルである天守閣の早期復旧を目指します。

### 2 文化財的価値を損なわない丁寧な復旧を進める

国の特別史跡に指定されている熊本城には、勇壮さを象徴する石垣をはじめ、国指定の重要文化財建造物など多くの貴重な文化財を有しています。

その復旧にあたっては、これらが有する文化財的価値の損失を防ぐための速やかな保全に取り組むとともに、修復に際しては可能な限り崩壊原因を調査し、その結果をもとに必要な耐震化等の安全対策を講じつつ、文化財的価値の観点から保全すべき創建からその後の改造までを含む部材の再利用、重要文化財建造物や石垣が有する独自の伝統技法を用いるなど、文化財的価値を損なわない丁寧な復旧を進めます。

### 3 復旧過程の段階的公開を行い、観光資源としての早期再生を図る

熊本城は、年間を通じて国内外から170万人を超える多くの市民・県民・観光客が訪れる本市を代表する重要な観光拠点であり、観光業や宿泊業をはじめその他関連産業等の地域経済にも密接に連動する観光資源です。

来場者への万全な安全確保を前提として、公開可能なエリアから復旧作業を含めて段階的な公開を行い、復旧していく熊本城の姿を学習・社会教育・文化財保護啓発等の場として活用しながら、観光資源としての早期再生を図ります。

### 4 耐震化など安全対策に向けて最新技術も取り入れた復旧手法の検討を行う

熊本城は、建造物等の全てで倒壊・崩落などの被害を受けたほか、石垣についても全体の約3割が崩落・膨らみ・緩みが見られるなど甚大な被害を受けました。

特に建造物等の倒壊・崩落については、石垣の崩落に起因しているものが顕著であることから、建造物等の耐震化手法はもとより、石垣の耐震化を様々な手法により図っていくことが重要です。

安全対策の強化と減災を見据えた将来にわたって強い熊本城に復旧していくため、耐震化など安全対策に向けて、伝統技法による復旧と組み合わせて、文化財的価値の低下を最小限に留めつつ最新技術など現代工法も取り入れた復旧手法の検討を行います。

### 5 “100年先の礎づくり”として未来の復元整備に繋がる復旧を目指す

基本計画では、計画期間を概ね20年として熊本城復旧の具体的取り組み・施策を短期・中期的視点から取りまとめますが、他方で未来の復元整備も見据えた長期的な視点を持つことが重要です。

今回の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の復旧と、幕末期など往時の姿への完全復元の検討を通して、震災の記憶を次世代に語り継いでいくことが重要であり、熊本地震を教訓として、熊本城の更なる調査研究や継続的な復旧を支えていくための人づくり・体制整備などにも取り組みながら、“100年先の礎づくり”として未来の復元整備に繋がる熊本城の復旧を目指します。

### Ⅲ 基本方針

熊本城復旧の「Ⅱ 基本的な考え方」に基づき、熊本城復旧の基本方針を以下のとおり定めます。

なお、基本方針に掲げる主要施策は、次年度までに策定する基本計画の検討過程において必要に応じて適宜施策の追加等を行います。

#### 基本方針1 被災した石垣・建造物等の保全

熊本城内には、熊本地震により被害を受けた石垣や建造物等が崩落・倒壊等した状態で散在している状況にあり、復旧の初動として被災した石垣・建造物等の部材の速やかな保全と倒壊防止等の対策を講じ、文化財的価値の保全と被害の拡大防止を図るための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(不開門)

#### ① 崩落・倒壊した石垣・建造物等部材の回収・適切な保全

熊本地震の発災以降、市道や民地に崩落した石垣や建造物等の部材回収に取り組んでいますが、未だ多くの石垣・建造物等が崩落・倒壊等をした状態で残されています。

文化財的価値の保全等の観点から、引き続き、石垣・建造物等の速やかな部材の回収と適切な保全に取り組めます。

#### ② 崩落・倒壊等の危険性の高い石垣・建造物等への緊急的防止措置

熊本地震の発災以降、飯田丸五階櫓の緊急倒壊防止対策や地割れした地表面の雨水対策等に取り組んでいますが、未だ多くの崩落・倒壊等の危険性の高い石垣・建造物等が残されています。

現在でも余震が続くなか、これ以上の被害の拡大防止を図るため、引き続き石垣・建造物等への緊急的な崩落・倒壊防止対策を講じていきます。

#### ③ 被害実態の詳細把握及び復旧手法等への反映

熊本城の被害については、簡易調査等により一定の被害状況について把握を行っていますが、今後は復旧に合わせて建造物等の詳細な被害状況や石垣の崩落メカニズムの解明など被害実態の把握に努めるとともに復旧手法等へ反映していきます。

## 基本方針2 復興のシンボル「天守閣」の早期復旧

市民・県民をはじめ多くの方々が復興のシンボルとして早期復旧を望んでいる天守閣については、2019年の国際スポーツイベントの開催を見据えつつ、耐震化等の安全対策やバリアフリー化設備、復旧後の天守閣に相応しい内装・展示を備えた天守閣復旧のための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(天守閣)

### ① 市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧

熊本城のシンボルであり、市民・県民をはじめ国内外の多くの方々が震災復興のシンボルとして早期復旧を望んでいる天守閣の1日も早い復旧を目指します。

天守閣の復旧に向けては、本市で開催を予定している国際スポーツイベントも見据え、2019年（平成31年）には天守閣の復旧した姿をご覧いただけるよう取り組みます。

### ② 耐震化等による天守閣の安全性の向上

天守閣の復旧にあたっては、震災前から耐震化に向けた検討を進めてきたところであり、今回の熊本地震の教訓を生かし、災害時の来場者の安全対策を講じるための鉄骨ブレース等による耐震補強を行うなど、天守閣の耐震化に取り組みます。

また、災害発生時の減災対策としての防火区画の形成など、耐震化と併せた安全対策を講じます。

### ③ 天守閣のバリアフリー化及び内装・展示内容の刷新

これまで天守閣の各階の昇降や大天守6階の展望フロアへの移動手段は階段しかなく、障がい者や高齢者の方々が十分に天守閣を観覧できる設備環境が整っていなかったことから、今回の復旧に併せて、天守閣への階段での昇降が困難な方専用のエレベーター設置や車いす利用者等のための入口部分へのスロープ設置など天守閣のバリアフリー化に取り組みます。

また、内装・展示については、これまでの展示に係る空調設備等の課題や展示内容のあり方に対する指摘等を踏まえ、今回の復旧に併せて内装・展示内容の刷新に向けた検討を行い、熊本地震の展示をはじめ、ストーリー性を持った熊本城の歴史や魅力を体感できるような復旧後の天守閣に相応しい内装・展示を目指します。

### 基本方針3

## 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧

熊本地震による熊本城の被害は石垣が全体の約3割、建造物等の全てが被災しており、全体の復旧手順や手法等を定めただうえで効率的・計画的な復旧に取り組むとともに、文化財・都市公園両面からの調和の取れた復旧に取り組むための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(宇土櫓)

### ① 石垣の復旧方針検討及び計画的復旧

熊本城の復旧にあたっては、建造物等の基礎となる石垣とその他の石垣とに二分して整理したうえで、基本的には、建造物等の復旧の基礎となる石垣、或いは一体的な復旧を要する石垣の復旧に優先して取り組みます。

また、全体の復旧手順や耐震化を含めた石垣の復旧方針の検討、並びに復旧過程の段階的公開等との調整を行いながら、石垣全体の計画的な復旧に取り組めます。

### ② 宇土櫓など重要文化財建造物の計画的復旧

熊本城の復旧にあたっては、全体の復旧手順や石垣の復旧方針検討、並びに復旧過程の段階的公開等との調整を行いながら、熊本城の貴重な文化財である宇土櫓などの重要文化財建造物の計画的な復旧に優先して取り組みます。

### ③ 工区や復旧過程の公開等を踏まえた石垣・建造物等の段階的復旧

重要文化財建造物とその基礎となる石垣以外の再建・復元建造物及び他の石垣の復旧にあたっては、優先する石垣・建造物等の復旧工事のための動線確保や熊本城全体で錯綜する複数の工事を調整していくうえでの工区、復旧過程の段階的公開に必要な建造物等の復旧及び来場者の動線確保と安全対策など、様々な事案を勘案しながら段階的な復旧に取り組めます。

### ④ 伝統技法等による丁寧な復旧及び効率的手法の検討

石垣・重要文化財建造物の復旧は、耐震化等の減災・安全対策を講じながらも、文化財的価値の低下を最小限に留めつつ原則として伝統技法による丁寧な復旧に取り組むとともに、丁寧な復旧に際しては、早期復旧に向けた効率的手法の検討も併せて行います。

## 基本方針4 復旧過程の段階的公開と活用

熊本城は、震災復興に向けた市民・県民の心の拠り所であるとともに、年間170万人を超える観光客等が訪れる本市の重要な観光拠点であり、来場者への安全対策を前提として、熊本城の復旧過程の段階的公開と活用を図り、観光資源としての早期再生を図るための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(飯田丸五階櫓)

### ① 天守閣エリアの早期公開と本丸御殿大広間等の復旧

天守閣の復旧に合わせて、市民・県民をはじめ多くの方々が天守閣を間近で観覧でき、天守閣内観覧への前提となる天守閣エリアの早期公開に取り組みます。

また、天守閣エリアの公開と並行して、熊本城の多くの来場者が天守閣とともに足を運ばれる本丸御殿大広間等の復旧に取り組みます。

### ② 竹の丸エリアの公開と長塀及び飯田丸五階櫓等の復旧

今回の熊本地震による被害が比較的少なく、天守閣や熊本地震の象徴的建造物となった飯田丸五階櫓が眺望でき、これまでも肥後六花の育成・公開など市民・県民等の憩いの場として利活用がなされてきた竹の丸エリアの公開に取り組みます。

また、竹の丸エリアの公開と並行して、飯田丸五階櫓や重要文化財である長塀など同エリアを構成する石垣・建造物等の復旧に取り組みます。

### ③ 公開エリアの順次拡大と復旧過程の観光及び教育等資源としての活用

天守閣エリア及び竹の丸エリアの公開のほか、全体の復旧事業の進捗に合わせて公開できるエリアの順次拡大と復旧過程の段階的公開を行うことで、新たな観光資源として活用を図るとともに、小中学生等を対象とした学習や社会教育・文化財保護啓発等の場としての活用も図ります。

### ④ 都市公園施設としての復旧・調和

復旧過程の段階的公開時はもとより、熊本城には現在でも多くの市民・県民・観光客が訪れていることから、来場者に必要な便益施設・管理施設等の復旧にも並行して取り組み、石垣・建造物等の文化財を含めた都市公園施設全体の調和の取れた復旧を目指します。

## 基本方針5 最新技術も活用した安全対策の検討

被災した石垣・建造物等の復旧にあたっては、耐震化等の安全対策に向けて、伝統技法による復旧と最新技術等の現代工法も取り入れた復旧手法の検討を行っていくことが必要であり、今回の熊本地震の教訓を生かし、将来にわたって強い熊本城に復旧していくための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(頼当御門周辺)

### ① 文化財的価値の保全を踏まえた石垣・建造物等の耐震化等の検討

石垣・建造物等の復旧にあたっては、文化財的価値の保全を踏まえた伝統技法による復旧が基本的な手法となりますが、今回の地震の教訓から、将来の災害に備えた安全対策・減災のための石垣・建造物等の耐震化等の検討を行うことが必要です。

特に建造物等の基礎ともなる石垣の耐震化については、石垣崩落メカニズムの解明など被害実態の把握を進めながら、文化財的価値の低下が最小限となるよう様々な手法による耐震化の検討を行います。

### ② 耐震化等安全対策に係る最新技術・現代工法の検討

石垣・建造物等の耐震化等の検討にあたっては、創建当時の部材の使用や工法などの伝統技法を基本としつつ、伝統技法による復旧と、伝統技法と最新技術も取り入れた現代工法と組み合わせた復旧など、様々な復旧手法について検証を行うことが重要です。

その中で、文化財的価値の保全と耐震化等の安全対策が両立する手法を選択するなど、耐震化等の安全対策に向けては従来の現代工法や最新技術も取り入れた工法の検討を行います。

### ③ 将来の災害に備えた熊本城全体の安全・防災対策等の検討

石垣・建造物等の耐震化など個々の安全対策に加えて、大規模地震などの災害が昼日中に発生した場合を想定して、災害発生時の熊本城全体の避難経路や来場者の速やかな城外への誘導等の検討を行う必要があることから、熊本城全体の安全・防災・減災対策等についても検討を行います。

## 基本方針6

## 100年先を見据えた復元への礎づくり

基本計画を熊本城復旧の短期・中期施策として取りまとめる一方で、未来の復元整備を見据えた長期的な視点も震災の記憶を次代に語り継いでいく観点から重要であり、熊本城の復旧と並行して100年先や更にその先を見据えた復元への礎づくりのための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。



(熊本城復元整備予想図<H22>)

### ① 熊本城調査研究の更なる推進

今回の熊本地震により熊本城は甚大な被害を受けましたが、他方で震災に係る調査を通して、過去の震災の被害状況や石垣内部の構造が明らかになるなど新たな発見にも結びついており、石垣や建造物等の復旧方針や手法の検討を行っていくうえでも熊本城の調査研究を更に進めていくことが重要です。

また、調査研究で得られた成果を復旧に反映していくことは、幕末期など往時の姿への復元整備の検討にも繋がることから、熊本城の調査研究の更なる推進に取り組めます。

### ② 将来にわたる継続的な復旧を支える人づくり

熊本城の復旧には長い歳月と多大な費用を要することに加え、高い専門知識や技術を要するほか、復旧に携わる技術者や技能者など多くのマンパワーが必要であり、その確保と育成を図っていくことが重要です。

国県等の関係機関や城郭を有する他都市からの専門職員等の派遣などの人的支援をはじめ、全国から復旧に携わる石工等の技能者の参画を求めながら、将来的には熊本で技術者・従事者が確保できるよう技術者や専門職員等の育成を図るなど、継続的な復旧を支える人づくり・体制づくりに取り組めます。

### ③ 震災の記憶継承と幕末期など往時の姿への復元検討

熊本城の被害をはじめ熊本地震の震災の記憶を風化させることなく次代に語り継いでいくことは、熊本地震を体験した今を生きる私達の使命です。

今後の熊本城の復旧過程の公開や展示など様々な機会を捉えて震災の記憶を未来に継承していくとともに、熊本城の復旧と並行して100年先や更にその先を見据えた未来の復元整備に繋がる大局的な視点を持ち、幕末期など往時の姿への復元構想などについても検討を行います。

熊本城の復旧を効率的・計画的に進め、戦略的な公開・活用を図っていくためには、基本的な考え方、基本方針、復旧の手順及び工法並びに復旧過程の公開等の施策を基本計画に定め、計画に基づく復旧を進めていくことが重要です。

関係機関・専門家・市民・県民等の意見を十分に踏まえた基本計画の策定と計画を着実に推進していくための体制整備、市民・県民をはじめ多くの方々の参画による復旧を進めていくための主要施策として、以下の具体的取り組みを進めます。

### ① 関係行政機関・専門家・市民等の意見を踏まえた基本計画の策定

本基本方針に沿って、熊本城復旧のマスタープランとなる基本計画を平成 29 年度までに策定します。

策定にあたっては、基本計画策定に係る委員会等を設置し、国県等の関係機関をはじめ、専門家や経済団体、関係団体等の意見を踏まえるとともに、パブリックコメントなどを通じて市民・県民等の幅広い意見を取り入れていきます。

### ② 国県等の関係機関一体となった復旧の推進

多くの国指定の文化財を有し、広大な都市公園である熊本城の復旧には、高い専門知識と技術、マンパワーが必要であり、被災自治体である本市のみで復旧を進めていくことは困難です。

基本計画の策定をはじめ計画の着実な推進を図るため、本市の体制拡充及び国県等の関係機関が一体となった体制のもと、復旧を推進します。

### ③ 城主制度や瓦の活用等による継続的な市民等の参画による復旧

長い歳月と多大な経費を要する熊本城の復旧には、復旧財源の確保はもとより、財源的な支援に関わらず市民・県民をはじめ国内外の多くの方々の継続的な参画による復旧を進めていくことが重要です。

復興城主制度の更なる周知・受付体制の拡充検討を行うとともに、被災した天守閣等の瓦の活用や様々な機会を捉えた新たな参画手法の検討など、多くの方々が熊本城の復旧に参画できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

＜熊本城復旧基本方針に関する懇談会＞

基本方針の策定にあたっては、基本方針の内容その他策定に必要な事項について関係者からの意見を聴取するため、「熊本城復旧基本方針に関する懇談会」を設置し、文化財及び都市公園並びに地域経済等の多様な観点から、学識経験者や関係団体の皆様に参画・議論をいただきました。

(1) 委員名簿

(敬称略・委員五十音順)

役職	団体・役職名	氏名
会長	東京農業大学名誉教授	蓑茂 壽太郎
副会長	熊本市文化財保護委員会委員長	村上 豊喜
委員	熊本商工会議所会頭	田川 憲生
委員	熊本城保存活用委員会委員長	平井 聖
委員	熊本県文化協会会長	吉丸 良治

(2) 設置年月日

平成28年10月20日

(3) 開催要旨

開催年月日	内 容
平成28年11月 8日	第1回熊本城復旧基本方針に関する懇談会 ○委員委嘱 ○会長・副会長選任 ○熊本城復旧基本方針（案）の概要について
平成28年12月 8日	第2回熊本城復旧基本方針に関する懇談会 ○熊本城復旧基本方針（案）について

